

## 原南陽 医案③

一唱家の夫。胸痺し、常に心痛し、飲食美からず。病間なる時は氣力常の如し。一二の友人來訪困碁す。大いに発す。手も近づくことならず、転倒、乾嘔す。妻孥皆曰く、是れ酒傷なり。常に醒むる日なし。

仍つて医の治するもの酒となし、之を治するに効無し。或いは疝となし、或いは痰となし、三和散の輩、連投し、益危うし。余曰く、是を胸痺となす。即ち其の脊第五椎辺を按ぜんとするに、指をかざすこともならず。

当帰湯加附子二貼を与えて痛み半ばを去る。三十日ばかりにして全愈したり。